

各位

2019 年 4 月 11 日 (木)
桜丘高等学校 生徒会
孫便りの会 (IAクラブ)

～今日で東日本大震災から 8 年 1 カ月が経過～

<気仙沼大島大橋の架橋によって変わる島の生活>

東日本大震災発生から 8 年 1 カ月が過ぎ、気仙沼で最近大きく変化したことがあります。それは、この 4 月 7 日に開通した気仙沼大島大橋です。この開通によって、これまでフェリーで約 20 分かかり、行き来していた会社員からは「これからは船の時間を気にしなくてよいので、気持ちが楽になった」という声や、「台風、強風時にはフェリーが欠航になって困ったが、その心配をしなくてよくなった」という声があるものの、観光施設や道路の整備が進んでいないことによる渋滞等を心配する声もあり、今後のインフラ整備が課題となるのではないのでしょうか。4 月 7 日～9 日にかけては日帰り観光を中心にかなりの渋滞が島内で発生して、島の住民も少々困惑したという声も聞こえてきています。

それと震災発生から 8 年間、気仙沼大島に行く度にフェリーに乗船する楽しみの一つでもあったカモメの餌やり (かっぱエビ煎) が、もう出来なくなるのかと思うと寂しい限りです。また、いらぬ心配事かも知れませんが、フェリーのお客によって餌付けされた多くのカモメたちは今後どうなるのでしょうか？

～気仙沼・大島の臨時船「ひまわり」号は震災遺構に！～

東日本大震災発生時に大津波を見事に乗り越え、その後は被災者捜索の最前線で大活躍し、捜索終了後は大島の住民の足として気仙沼と大島を往復した臨時船「ひまわり号」が、この 4 月 6 日 (土) 午後 10:00 気仙沼発を最後に、現役を引退することになりました。

ただし、この臨時船「ひまわり号」は、大津波を乗り越えた船として、小学校の道徳の教科書に掲載され、また島民にとっては心の支えにもなっている船でもあるという事もあって、今後も何らかの形で残していきたいという島民の強い要望から、今後は点検をし、建物の中で震災遺構として保存していくということです。

～大島の人たちの笑顔につながる活動をこれからも！～

8 年間繋いできた気仙沼と豊橋 (桜丘) の絆で、気仙沼との心の距離はかなり縮まってきたとは思いますが、まだまだ現地気仙沼は復興の道半ばです。そういう意味では、これからも、現地の人たちの笑顔を求めて豊橋の皆さん方のご理解とご協力を得ながら復興支援を継続していきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。